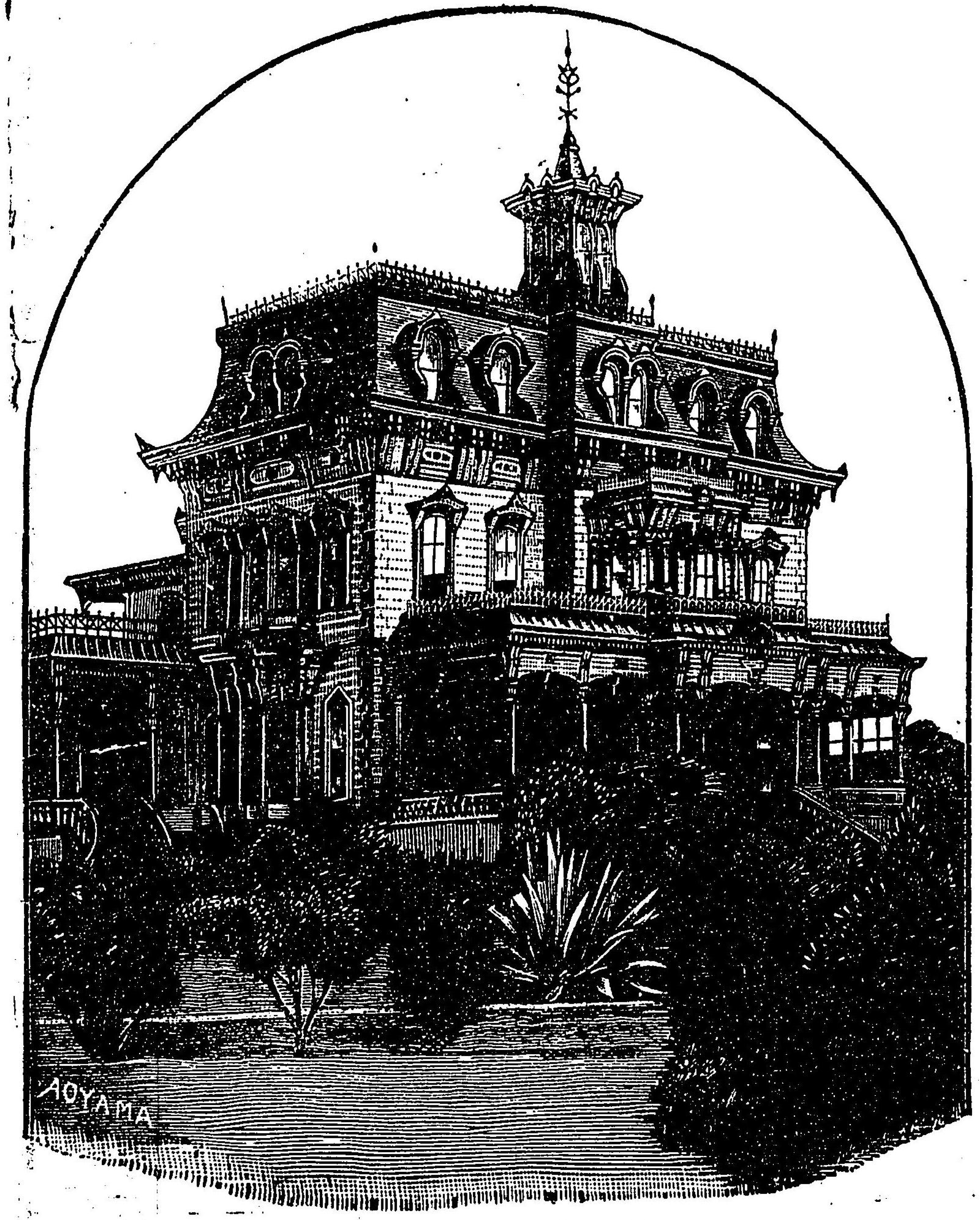
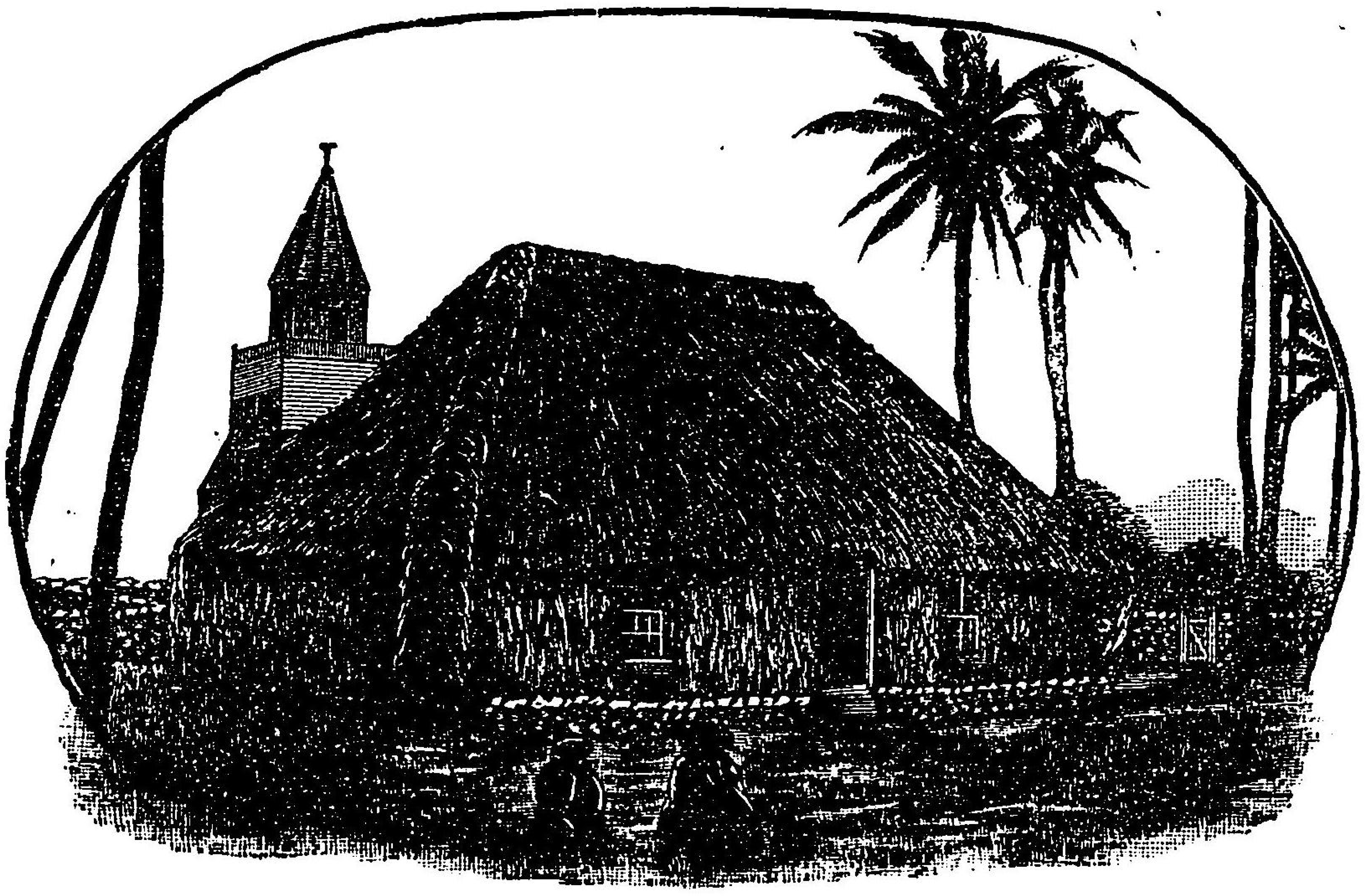
HAWAII.

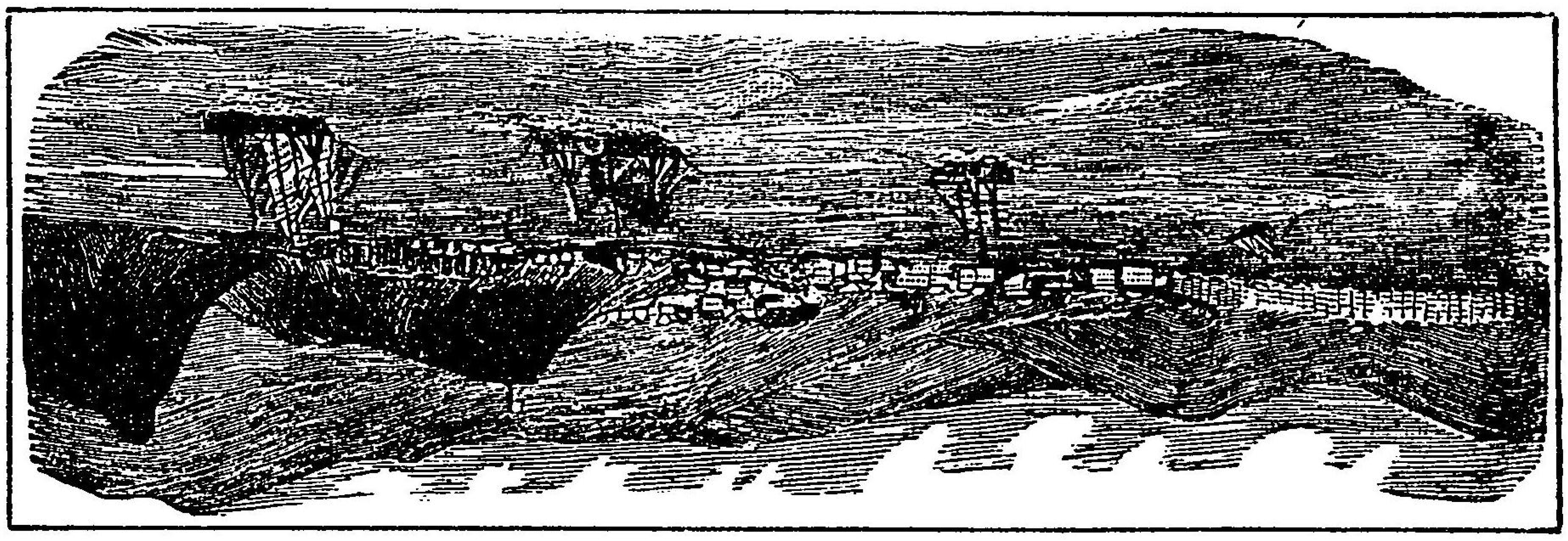
布哇國案内



現今の宮殿



古の宮殿



ホノルル港

布哇國案内

緒言　住み慣れし吾日本を出でゝ海路二千里と去る布哇に出稼を爲さんとする人々ハ其心に幾多の思が一時に湧き出で來るでありませふ吾が去りし後に於てハ父母ハ如何に暮らし玉ふべきか吾が兄弟吾が妻子安全にして暮らせ玉ふか吾が村人吾が國人も亦無事にてあれがし終に亦いとも畏くも吾が皇帝陛下も萬歲に渡らせ玉へかし吾ハ明日よりハ吾が住みなれし家、吾が見慣れし山々を雲霞の中に殘して遠き道を布哇の島に求むるとであれバ人情として吾が愛する國を去り遠ふき他國の空に生活を求むることハ誰れしも好んで爲すとではありませんが熟

ら今日吾が日本國の有樣を考へて見ますれバ實ニ止むこ
なき次第であります、それハ如何なる道理と尋ぬれバ日本
に於て毎年人口の殖ることが三拾萬より四拾萬の大數ニ上
り僅か六七年前までハ日本全胞三千五百万と唱へ來りま
したものが今でハ其數ズッと殖へて日本同胞四千萬と云
ふことニなりました、箇樣ニ人口が年々增すことハ實ニ喜ぶ可
きことでありますれども亦一方より考へますれバ吾等ハ此
の人口の增すことニよりて大に苦痛を受けねバなりませぬ、
今此れを說き明かす爲めニ此にひとりの年若き人ありて
妻を迎ふることゝ致しましよふ成程其人が妻を迎ふることハ
實ニ目出度き事でありますが其妻を養ふ爲めにハ其人ハ
妻無き時よりも多くの働き多くの苦痛を爲さねバならぬ

事であります又でゝニ間もなく嬰兒が生れることとなりま
すれバ之も實ニ喜ぶ可き事でおりますれども其子を養ふ
爲めニハ親たるものハ猶一層ニ働きを加へねバならぬ事
となります箇樣なる理由ニて一家ニ於ても人數の殖ゆれ
バ殖ゆる程諸事萬端の入費が多くなり從て其入費を作り
出す働きも又增さねバならぬ道理であります然るニ若し
其人數のみが殖へて入費を仕拂ふ財產が殖へなけれバ俗
ニ所謂「貧乏世帶に子澤山」ニて人數の殖へることハ却而一家
の禍となります今日我日本の有樣を考へますれバ少しく
之れニ似たるところがあります一年ニ三拾萬或ハ四拾萬
の人數が殖へることハ實ニ宜敷ありますが之れと共に日本
ニ食物がそれ丈け多くあり又金が多くなるかどと尋ねます

れバ之れハ少しく覺束なき次第であります全体日本國ハ外の國々に較ぶれバ甚だ小さき島國でありまして之より生ずる五穀其他の產物には限りがありますから毎年人口が増しますれバ遂に日本に生ずる食物丈でハ其人々を養ふ事が出來ぬ樣に成り行くことハ尤も明かなる道理であります、されバ吾が四千万の仝胞の內にて誰れかゝ是非共北海道の樣なる未開の土地に行きて食物を求め又たハ布哇の如き外國にまでも行きて金儲けを爲すの必要が起る。のであります、即ち或人々が北海道の開拓に出掛け又諸君が布哇に行くのも仝じ道理で之れハ日本に取りてハ一家の人減らしをする樣なものであつて國に殘れる人々ハ之れに依りて大に利益を得ることであります加之諸君が布哇

にて儲けし金を貯へて故鄉の父母妻子に送り又た歸國の際之れを持ち來らバ日本ハそれ丈け國が富むとなります、されバ諸君が布哇に行くとハ只に皆散の利益計りでなく實に日本全体の利益となる譯であります斯くの如くに自分が布哇に行くハ只に自分の爲めのみならず父母の爲め又國の爲めであると思へバ暫く吾が父母妻子に別るるも何かあらん雲井に聳ゆる富士の高根を暫らく仰がざるも亦何かあらん、たゞしハ亦布哇の島の荒磯に骨を曝らすも恨みるところでハありません、諸君ハ國の爲めに働きに行くのでありますから、

地理　布哇に浮航る人が日本を出る前に於て第一に考ふることハ布哇と云ふハ何處にあるか又何んな國であるか

と云ふ事でありましよふ、そこで先づ布哇の地理の事を述べます、

日本と亞米利加の間に大きなる海がある、之れは世界で尤も大なる海でありまして其名を大平洋と申し日本より亞米利加までの差渡し二千二百三拾餘里布哇は此海中に在る少き島々でありまして丁度日本の横濱より千六百餘里の處にあります其内で尤も大なる島の廣さが六百七拾餘方里凡ての島の廣さを合すれば千〇七拾餘方里、日本にて言へば四國より少しく少さき位でありますそして其島は皆な火山より成立ちまして今もなほ四時烟を吹て居る山があります而してその山には幾分高き山がありまして其内の一つは日本の富士山よりも少しく高き山もあります

併し日本の富士山の様に美しき形を持てる山は一つもありません

氣候及び地味　氣候は日本よりも餘程暖にありて山の頂を除くの外は雪の降る事や氷の張ると云ふ事はありません、それならば夏は非常に暑いであろふと思ふ人もありませふが之れは全くそふでなく夏は思の外に涼しき方でありまして凌がれぬと云ふ様な暑さはありません之れは如何なる理由かと言へば全体此島は海の眞中に取圍まれて在るから冬に此海水の暖氣にて温かになり夏に此海水の冷かなる爲めに涼しくなる譯であります

布哇に於ては一年中に一度づゝ全く雨の降らぬ時候があります此の時候に於ては野も田畑も枯れ果てゝ全く荒野

になります併し地味ハ餘程宜しき方にて此乾燥の時候を除いてハ何にても能く育ち多くの収穫があります其内にて尤も多く出來るのハ甘蔗でありまして日本の人々が出稼ニ行くも多くハ此甘蔗の耕作を爲す爲であります

人種　次に此島に於てハ如何なる人が住んで居るかと云ふ事であります今でハ布哇に行つて見れバ日本人もあり支那人もあり又亞米利加人もあり歐州人も澤山ニ居りますが昔ハそふでなく只土人(昔より住める人)のみ居たのであります其土人と云ふハマレー人種と稱へられたる人種の一つでありまして其色ハ白でもなく又黒でもなく稍や日本人に似て居るところもありますが其容貌体格の具合少く日本人と異なる點もあります今日土人の數ハ僅か三

萬人位でありますが西洋人が此島を發見した時ハ四拾萬ありました其後今より百年程前にハ三十萬と減じ其後又た段々と減じて今日でハ僅か三万と云ふ少數に成た事でありますが、かく人口の減少ニ付てハ種々理由があります學者の說に由れバ無知なる野蠻人の中に文明の國の人々がはいれバ野蠻人ハ段々と消へ失せると云ふ事であります此れハ丁度日本の内地の人が北海道ニ移住すると、かのアイノーと云ふ北海道の土人が次第々々ニ少くなると全じ道理であります而して其原因の尤も著しき者ハ土人が酒類を矢鱈ニ用ゆることであります西洋の水夫等が布哇ニ行くまでハ土人ハ酒類を釀る法を知らず固より酒類を呑むことも知らなかつたのであります然るに西洋の水夫

等が布哇に來りし以來土人は酒類の醸法を知り妄りに酒類を用ゆる樣になり從て放蕩淫亂の風が行はれ之れが爲めに土人の体力は次第に衰へ種々の惡病が流行し遂に今日の樣に人數が減少したことで實に酒と云ふ者は恐る可き者であります土人の外には前にも述べし通り諸國の人々が澤山に在りますが之を國別にて分くれバ大凡日本人が二万人布哇出生の外國人一万人、間兒五千人異國人種五千人支那人一万五千人、ホルチユガル人一万人と土人の三万五千人を合せて總計すれバ大凡十万人の人口となります此の統計に依りて見れバ土人の次は日本人が尤も多くありまして我日本にしてかくの如く多く外國に出でゝ居る所は布哇を除て外に在りませんされバ布哇は日本人が

尤も多く外國人に接する所でありますれバ布哇に行く人々は能く々々注意して決して日本の名譽を汚がす事の無き樣にせねバなりません

土人の宗教　今日では基督教が多數の人の教となりて居りますが未だ基督教がはいらぬ昔に於ては土人は別に自分の宗教を持つて居たのであります、其教にては多くの偶像を拜みますが其内に於て尤も大なる神は火山の神樣でありります前にも述べし通り布哇には昔より火山が多くありまして山の頂きより始終烟を吹き出だし又「ヲウア」と云ふ石の溶けたる者を吹き出だしますが土人は之を以て神樣の仕業となして之を祭りたのであります布哇に於ても日本の磐梯山又たは吾妻山などが破裂せし樣に時として

大破裂を起すことが度々ありました、然るに無智なる土人は之を神様の御怒であると思ひ供物を捧げ祈禱をなし時としては人間を犠牲として生きながら噴火口に投げ入れることがありました、

偖而こゝにまた面白き話は布哇人の宗教に昔より一つの言傳へがありまして其口傳によれば昔し布哇に一つの神様がなくなりまして其なくなつた神様が又何時か海を渡りて來る時があると云ふ事でありました、然るに丁度千七百七拾九年今より百年許前に於てキヤプチン、クツクと云ふ人が布哇の島に上陸致しました、土人は驚き來りてキヤプチン、クツクを見ますれば其容貌から髮の色からまるで異つて居り其上その口よりは噴火の如き烟を吐きて居りますから（實は烟草を呑んで居るのでありました）之れは全く昔より口傳はりたる神様が來たのに相違なしと凡ての者を持ち來りてキヤプチン、クツクにさゝげ之を拜みましたキヤプチン、クツクは餘り正直な人でなかつたから土人の愚かなるを幸として神様のふりをなし偽りて土人より種々の者を欺きとりました偖而始めの程は土人等は喜んで凡ての者をさゝげましたが時として此神様が餘りに無理非道の事をやりましたので土人の内には果してこれは眞の神様であろふかと云ふ疑ひが起りました、

或る日の事彼等が打ち集り相談致す様若し此れが眞の神様であるならば、たとい吾等が彼等を打ちたゝくも決して吾等に負ける道理はない、されば果して彼れが神であるか

無きか打たゝいて試みるに如くなしと相談一決遂に一人の者が棒を以てキャプチン、クックを打ちたゝきました實に神ならぬキャプチン、クックいかでか以てたまりましよふ、彼れ遂に其正躰を顯れし土人の爲めに打ち殺されました、

二人の水夫の話及基督教の布哇に入る事　此時分までハ布哇國ハ實に野蠻なる國にして固より文字もなければ書物もなく學校もなく土人ハ殆んど禽獸と同樣の生活をなして居りました然るに今より凡そ八十年前に於て二人の土人が水夫となりまして亞米利加に行き市街の有樣を見ましたが亞米利加ハ御存知の如く文明國であつたから彼等の目に見慣れぬ麗れしき家があり大なる學校があり何一つとして彼等の目を驚かさぬものハありません其内に於て彼等の考に尤も不思議に見へたのハ學校でありました何の爲めに毎日多くの年若き人々がそこに集るであろふか彼等ハ疑の餘りに能く〳〵聞きたゞしますれバ學校ハ智慧を敎ゆるところであり、其學校にて敎へられたる智慧の力に依りて美しき家も建て大なる學校も建てると云ふ事でありました、二人の水夫等ハ夫程の貴き智慧であるならバ自分等も敎へて貰い度者と或日學校に行きましたが其日ハ丁度休日であつて學校の門が閉られてありました水夫等ハ殘念の餘りに門前に立ちながら泣て居りましたが或る基督敎の人が之を見付て其理由を聞き憫然の事に思ひ直に自分の家に連れ行きまして敎育を授けました、

さて亞米利加に於て今一つ彼等の目に餘程奇妙に見へたのは此の國の人々は布哇に於ける樣に偶像を拜まずして目に見へざる眞の神を拜む事でありました始めの程は餘程不思議に思はれましたが能く々々其道理を開きて始めて今迄吾が拜みし偶像の力なきことと天地を支配し玉ふ神の力あることがわかりました、而して彼等が尙は一層深く感じたることは此の神の敎が實に亞米利加の文明の土臺となり生命となりて居ることでありました、そこで彼等も遂に基督敎の信者となりましたかくて年月を過ぎ行く内學問も大分出來ましたれば布哇に歸ることに決心致し若し歸たればどふかして吾が布哇を亞米利加の如き文明國となし又た眞の神の道をも傳へんと遂に耶蘇敎の宣敎師を伴なひ歸りました、

宣敎師の解　耶蘇敎の未だ傳はらざる國民に耶蘇基督の福音を宣べん爲め萬里の異域に遣され身を棄て自ら好んで行く者之を宣敎師と申します、亞米利加合衆國にありては無數の信徒相集まり、數多雲に聳ゆる宏壯なる傳道會社を設立し年毎八万圓より十万圓に至る大金を義捐して五千人乃至六千人の多人數の宣敎師を世界の國々島々へ派遣しますが布哇國に此の宣敎師を送り始めましたる會社の名を何ぞと問ば「アメリカンボールト」と唱へ日本語にては米國傳道會社と譯されます、嘗に布哇國のみならず亞弗利加、印度、支那、朝鮮は恐ろか北は氷の山なす處、南は人を喰ふと云ふ黑奴の住む暑き沙漠の

海に至るまで數多き宣教師を派遣して迷へる者に眞の神を傳へ暗き人を文明の光に導き大なる功益を世界の人類に垂れたるは實に此の會社の歴史で御座ります、今を距ると三十餘年前、日本も港を開いて外國と交際を結びし後多くの宣教師だちが入り來り此の教を傳へしが故今は至る處に許多の信者を見るに至りました、偖て宣教師等は布哇國に來りてより殆んど五十年間專ら傳道を勵みしかバ其結果として土人等も今は耶蘇教の如何なる者かを能く悟りしと見へ次第に信者の數を增すに至りたれバ亞米利加傳道會社は明治四年頃より宣教師を布哇に送る事を止めました何となれバ最早や必要のなくなつたからであります僅か五十年の間だに

昔の野蠻と今の文明と布哇國の見變へる進歩のあるに至りしハ皆宣教師等の骨折にして其原を正せバ米國傳道會社が派遣したのであります、

亞米利加傳道會社が一度布哇傳道を引上げし後異國人等が次第に布哇に入り込むに連れ惡い風俗習慣が多分持ち込まれましたそふですが布哇の風紀ハ之れよりして再び亂れ始むるに至りました、そこで米國傳道會社ハ再び布哇傳道の必要を感じて參り本年正月の事なりしが曾て日本に二十年餘りも傳道を勵みたるオー、エッチ、ギユリキ師ハ布哇の言語を能く語り亦日本語にも通じたる人なれバ布哇國土人並びに布哇にある日本人の傳道の爲め全會社を代表してホノルヽ府に働かるゝ樣に決

して全府に赴かれました若し諸君が同師の處へ訪問れでもし玉ふならバ同師ハ喜んで日本語を以て諸君にお話なさるで御座りましよふ、

扨て歸りて見ますれバ誠に驚くべき事ハ二人の水夫が國を出づるときまで土人等ハ皆偶像を拜んで居りましたが今彼等が歸りてみますれバ土人等ハ皆偶像を拜むことを止めて居ります、これハ如何なる譯であるかと尋ねますれバ土人等ハ二人の水夫の留守中にキャプチン、クックを殺せし後偶像が眞の神であるか無きかを試みんと遂に之を打壞れしました若し偶像が力ある神であるならバ打壞さる可き道理なく又之を打壞ハすに於てハ神の罰が來る可き道理でありますに左樣の事ハ全く無かつたものでありますから土人ハ初めて偶像の力なき事を悟つたと云ふ事でありります、されバ二人の水夫等が歸りし時に土人が偶像を拜まざりしも道理でありまして宣教師の人々ハ眞の神を傳ゆるに於て偶像の力なきを說くの必要なく基督敎の傳ハる事が餘程容易くなつたのであります、

偶像の解　天地萬物を造りたる者ハ唯一つの神で御座ります余等此神を眞の神と申ます此の神樣でハなく只人間の手にて造られて崇拜まるゝ者此を偶像と申ます例へバ日本の神社佛閣に詣つてある金佛、石佛、木佛、神躰、御守護なども其內に國異なるに從ひてハ狐、狸、虫けら、蛇、等樣々の者を崇拜みますが此等と供に名々の內に在る位牌「ホユラ」などをも込めて廣く申したる名が偶像で

あります、

是に於て宣教師は羅馬字にて布哇の言語をつゞり之を土人に教へ又學校や會堂を建てさせ其他種々利益になる事を致しましたから土人は其親切に感じて喜んで基督教を聞き多くの者が信者となりました、

近頃之有樣　基督教が這入て布哇が次第に文明に趣く端緒を開きましたのは只今述べた通りでありますが尤も著しく國が富み盛んになりましたのは過る二拾年の間であります此の間に於て多くの外國人が入り來り之れと共に多くの文明の利器、文明の思想が這入りました、併し之れと共に又多くの惡しき風儀も輸入されたのであります、

布哇の島の都をホノルヽと申し諸君が此港に着しました

なら其建物は日本にも稀れなる程の者もあります官衙もあり學校もあり會堂もあります、而して其處に住んで居る人々は前にも申せし通り日本人支那人米國人、又歐洲各國の人々があります是等の人々は何の爲めに布哇に來て居るかと申せば多くは金儲けの爲めでありますから其內には隨分狡猾なる人も多くありまして人を欺き人をわなに陷れる樣なる惡漢もあります而して此國に於ては色々なる不正なる事をなして金儲をなしたる人は裝ひの大なる家を持ち一寸見れば紳士の樣にして居りますから決して外形を以て人を信用せぬ樣にせねばなりませぬ、是等の點は日本より始めて出稼ぎする人の尤も注意をなす可き事であります併し亦一方に於ては固より善き人々も多

くあるのであります、偖而此の如き人々ハ重に如何なる社會に多くあるかと申せバ基督教を信ずる人々の内ニ多くあると言ふより外ハありません固より只名のみ基督教信者である人ハ論外でありますが若し諸君が十分ニ注意して觀ましたならバ眞の基督教信者ハ尤も信用す可き人々でありて其國の精神となり力となり骨となりて居ることが分りましよふ、

終りに於て一言致度き事ハ諸君が布哇ニ行かれましたあらバ願くハ彼國の惡しき習慣に陷らずして善き社會に交り進んで又基督教の何物たるを硏究し眞の神の道ニ入り正しき人となられんこと偏に望むところであります此の眞の神樣ハ天地を作り人間を作り玉へる天の父でありまして吾等ハ此の神の惠に依りて此の世に生活することが出來ることであります又此の敎ハ今より千八百九十餘年の昔に於きまして此の眞の神樣が人間を罪より救ハん爲めに自分の愛する獨子耶蘇基督と云ふ御方を此の世ニ降だして傳へさせ玉ひし救の道でありまして吾等罪ある人間ハ此の基督の御力と御德に依り罪を洗ひ心を清くし眞の人間となる事が出來るのであります、ドーカ諸君が遠き布哇に在りても此敎と此神の力ニ依り無事安全ニ過ごされんこと偏へニ祈る處であります、

眞の神の解　此の眞の神樣の獨子なる耶蘇基督の御敎へニ就いてハ四つの傳記と初めの信者たちの書き送りたる手紙あり此等を集めて一つの書物とし此を聖書と

申し尤も大切なる書物であります、何故と申せば聖書は道徳の流れ出づる源にて夫れより泉び道徳の力は今日の西洋文明の基礎であると申すも決して誤りではありませぬ左れば聖書は大凡そ數百種の異なる國々の言葉に譯され何れの異國人と雖ども讀めない事はありませぬ現に日本語にて早くより譯されまして布哇の島にても日本人傳道の開けたる所ならば何れの市に於ても吃度求める事の出來る樣にしてあります左れば諸君にして若し斯くも貴ふとき此の教へを知らんことを望み玉ふならば一冊を購ふて能く讀んで御覽なさい必ず其内にある事情を覺り而して貴き天の神樣より來る心の生命を得る事が出來ましよふ讀み易き假名にて書いてありますから誰れにても讀めない事はありません亦た解らぬ所を問ひ說教を聞かん事を願ひ玉ふ諸君の御便利の爲めに日本より參り此の教の爲めに働いて居る人々の宿所姓名を左に書き顯はして進せましよふ暇ある時には何卒御尋ねある樣に御勸め申ます

布唯國オッフ島ホノルヽ市	岡部次郎
仝　ハワイ島ヒロ市	杉山重義
仝　ハワイ島ホノムシ市	曾我部四郎
仝　ハワイ島コハラ市	神田重英
仝　マウイ島パイア市	江上源三
仝　カナイ島リフエ市	高森貞太郎
仝　カナイ島マカメリ市	江口一民

附錄

布哇の通貨　布哇國に通用する錢は金貨銀貨の二種類よ り外にはありませぬ銀貨は大抵日本のと同樣の大さにて只名のみ異います布哇にては圓を弗と云ひ錢をセンツと申しまして五十センツ、二十五センツ、十センツ、五センツと小わけせられ五センツより、小さき錢は全國を回りてもありません

布哇の言語　土人の言語は別にありますされ共近年來小學校にては專ら英語を用いて生徒を敎へます故英語は尤も普通なる言語となりました左れば布哇にて繁盛に商業など營まんと欲ふ人々は是非英語を知らなければ差支へを感じるで御座りましよふ

布哇にての衣服　布哇にて日本人の着る普通の衣服は洋服であります日本服にても可笑しいと云ふ譯ではありませんが少し働きに不便かも知れませぬ現今日本人が常に耕作用に用いますものは多くは日本の船頭の着る服裝であります

日本婦人の服裝は大抵マサー、ハバッドと申しまして西洋婦人の便利衣裳樣の手輕き洋服であります此れは日本の服よりも婦人の働きに取りて餘程輕便なのであります

生活の度　生活は儉約さへすれば大抵一ヶ月一人五弗より七八弗の割合にて立ち行かれます（布哇の一弗は丁度日本の一圓に當ります）

布哇にて日本人の重なる仕業は砂糖の耕作でありますが

何れの耕作地ニ於ても日曜日ハ必ず休みと定まりて居ります、悪き風がありまして或る仲間らハ此の日を酒と賭博の日と致して居る者があります若し一度諸君が此の悪風ニ染みますと例へバ蜘蛛の巣に掛かりし蠅の樣な者で誠ニ哀れ危険の有樣に陥り折角汗水を流して儲めたる金錢も忽ち水の泡と消へ失せてしまう事が通例であります

布哇の政府　布哇が昔の野蠻を脱して文明の端緒を開き始めました時より同國にある宣教師等の助けを藉り人民が一の憲法を制定いたしました此の憲法と云ふハ法律の大原でありまして國王と立法議員の協議の纏まりし上ならでハ縦令國王にても決して此を變へる事の出來ない程大切で且堅固なる者であります布哇の國王たる者ハ即位

の前ニ當りて必ず此の憲法ニ從ひて堅く守ると云ふ誓ひを立て而る後に位ニ登るの法則でござります

今を距る事一年半前明治二十六年正月の事なりし時の女王リリウオカラニ此の憲法を破り諸大臣を廢して自ら新たらしき憲法を作らんと致したる時ホノルヽ府の人民等ハ女王の意見ニ反對し女王が誓を破りしを大に怒りて遂に一揆を起しましたが一揆が遂に革命となりて府民等ハ女王を廢して假政府を立てました、ホノルヽ府民等ハ布哇國を亞米利加合衆國ニ合併せんとの希望を以て同國政府に申込みましたかなれ共合衆國ハ布哇を合併するハ不得策と考へ此の申込みをバ拒絶したる故府民等ハ本年七月四日遂ニ新たニ憲法を制定し共和政府を組織する事に決めま

した左れば何れの國人たりとも此國の法律に服從さへするる者は布哇の國民とあることを得るのであります今左に新政府の定めたる法律の內諸君に必要と見認める點だけを書き載せて御參考の料に致す事としました、

布哇共和政府の憲法摘要

人民の權理

一 上帝は萬人に賦與するに生命自由、及び財産を所有、保護し亦は幸福を追求し得るの權利を以てし玉ふ

二 政府なる者は單に一個人、一家族或は一階級の利益を謀らんが爲めにあらずして一般公共の善益を計營する者とす

宗教の自由

何人たりとも自己が良心の指揮に從ふて神を禮拜するの自由あり然れ共淫逸の所業公共の平和治安を妨害するの所作は此の限りにあらず

集會及び請願

何人と雖ども秩序と平和の手段に依り公共の善益を計營するが爲には集會し或は任免を大統領亦は立法部院に上訴するの權理を有す

歸化法

一 外國人民の歸化に關する裁可は共和政府高等法院法官の職掌にありて存す

歸化法に關する手順は凡て法律に依りて制定せらる

二　外國人ハ左の諸件に依りて布哇國民權を享有し得る者とす

一　滿二年以上布哇に住居したる者

二　布哇共和政府の永住の民たらん事を希望する者

三　英語を理會し英語を以て讀書談話をなすに適したる者

四　自己熟練の英語を以て布哇國憲法の大意及び毎項の意義を明かに言顯はし得る者

五　布哇共和政府歸化法に關して締盟せる與國民に限り歸化すると同時に本國臣民たるの權利を繼續するを得る者とす

六　布哇國に歸化せんと欲する者ハ善良なる德性を有し決して法官の逃亡者たる可からす

七　正當なる事業或ハ傭役に服し又或ハ正當なる生活の手段を有する者に限る

八　凡て貸借精算の上尚ほ二百弗以上の財産を自己の權理に依りて所有する者に限る

九　憲法第一條に準じて本國或ハ從前の歸化國の政府に對する盟約を破棄したる上更に布哇政府に忠實ならんことを誓ふ者に限る

布哇國の官吏、投表者、立法議員及び陪席審判官の誓約

布哇共和政府の下に官吏元老院議員、及び代議士たる者或ハ元老院議員代議士、及陪席審判官の選擧者たる者ハ左の

誓約を取らざる可からず

余ハ全能の神の前に布哇共和政治の憲法、法律及び政府を保護し布哇王政の回復或ハ組織に對して直接間接にも決して力を致さゞることを堅く誓ふ

近頃布哇政府ハ立法院を通じて移住に關し左の如き法例を發布致しました

一布哇國に移住せんと欲する者ハ滿三年以上の勞役を豫約する乎然らずんバ五十圓以上の儲金所有者に限る

此の法令に背く者ハ布哇國の何れにも上陸することの出來ないので布哇政府より本國へ直ちに送り回さるゝのでありますから布哇に行かんことを望まるゝ諸君ハ其の覺悟がなからねバありませぬ、

明治廿七年十一月廿三日印刷
明治廿七年十一月廿八日發行

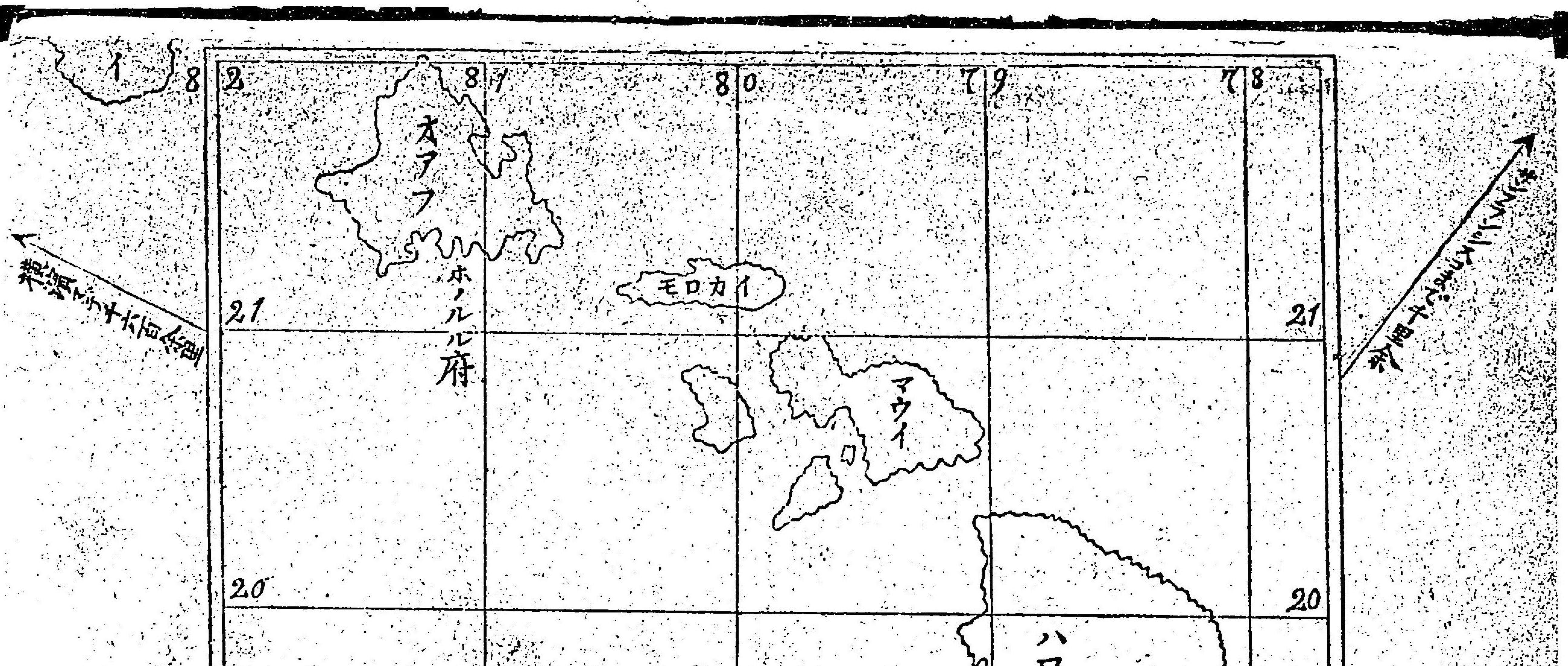
著者 愛媛縣伊豫國松山市北京町百六十二番戸 渡部教行

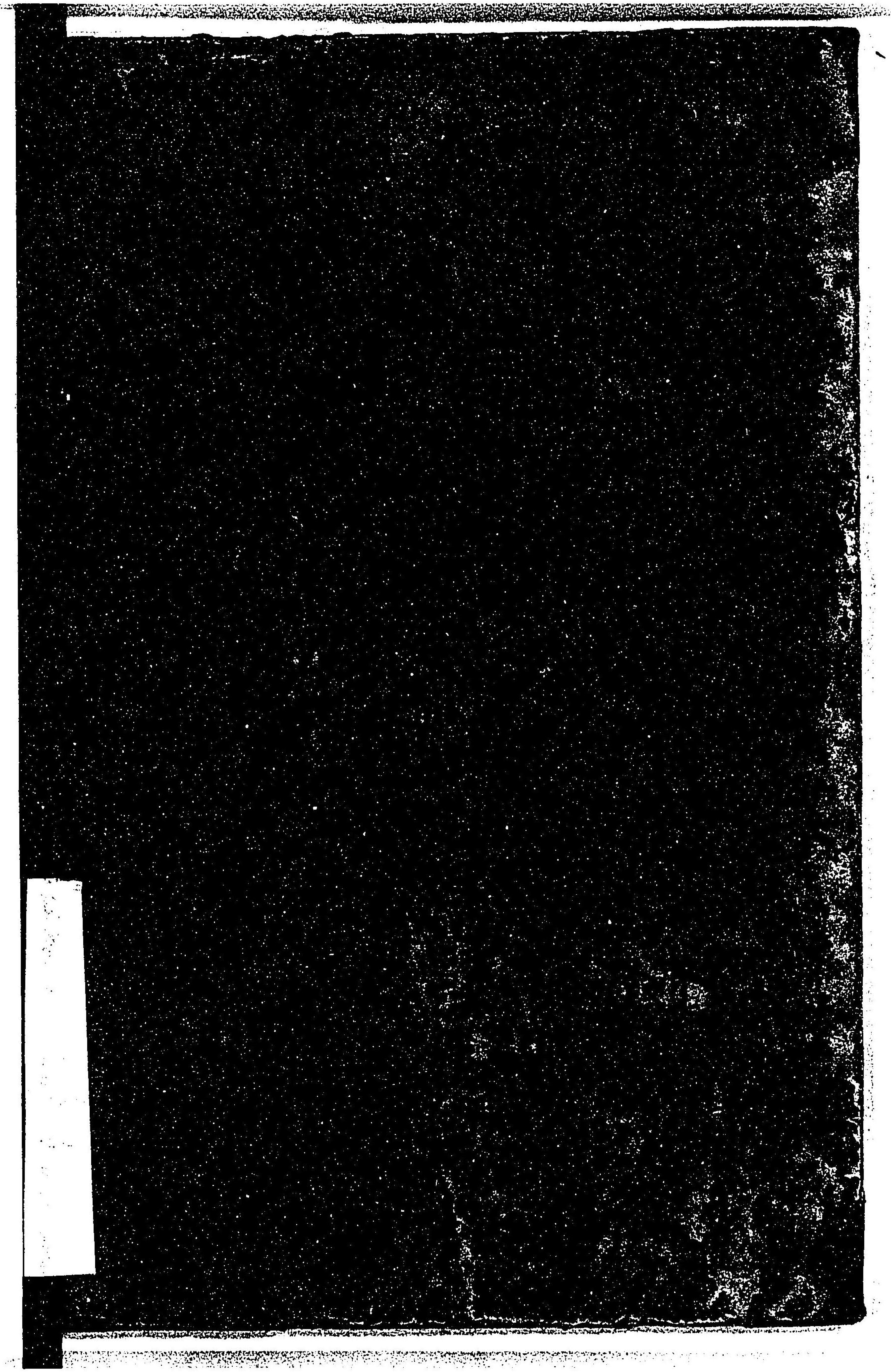
發行兼印刷者 大阪市西區土佐堀三丁目卅八番屋敷 今村謙吉

發賣所 大坂市西區土佐堀三丁目 福音社

關東賣捌 東京市京橋區出雲町一番地 警醒社書店

18
528


ハワ井本部諸島
之圖
オアフ
ホノルル府
モロカイ
マウイ
ハワ井
21
20
19
159
158
157
156
155



026938-000-2

18-528

布哇国案内

渡部 教行／著

M27

ADG-0061